１．科目名（単位数）	教育学総論　（2単位）	名古屋	３．科目番号	EDMP5101
２．授業担当教員	高橋 勝・石﨑 達也・金　龍哲・宋　曉鈞・内藤 伊都子			
４．授業形態	講義・演習		５．開講学期	春期
６．履修条件・ 他科目との関係	修士課程における必修科目			
７．講義概要	本教育学研究科修士課程では、複雑化する現代社会における人間形成の諸課題を、子どもから高齢者までの自己形成と生涯発達の視点から深く捉え直す「総合的な人間教育学」を基盤にして研究する。 本講義では、多角的な視点から「人間とは何か」「教育とは何か」「文化とは何か」という本質的な問いに取り組むとともに、教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向けた専門的知見について理解を深めることが目的である。そこで、教育学領域を中心とした人間関係諸科学の専門的知見について理解を深めるために、教育学領域、子ども支援領域・多文化共生領域の各学問領域の専門性を有した研究者らがオムニバス形式で講義・実践演習を行うことにより、今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直す思考力・想像力と領域横断的な研究能力を養うことを目指す。 ［オムニバス方式／全15回］ （高橋勝　3 回）---------- 講義では、「子どもの発見」とその「発達」保障から出発した近代教育学のフレームを、現代の臨床教育人間学から問い直す作業を行う。後発型近代化を終えた定常型社会では、「教育」の前に、「学び」と「意味深い生」が重視され、子どもだけでなく、若者、大人、高齢者も「自ら学ぶヒト」（ホモ・ディスケンス）である。向上志向の「発達」だけでなく、日常の生の不安や危機、老い、死の問題までも視野に入れた、より包括的な人間理解と、それに寄り添う臨床的な教育学の構築が求められる。受講生と共に、新たな人間理解と斬新な教育イメージを探索する。 （石﨑 達也　3 回）---------- 〈今日〉の教育的事象を捉え直し、教育の〈未来〉について考えるためには、〈過去〉の思想家たちの書物を歴史的な文脈や状況から丁寧に読み直すことが手がかりとなる。本講義では人間理解を深めるための方法としての人物・思想研究の意義・方法について解説し、実践をとおして文献研究の基礎的素養を磨く機会を提供する。 （金　龍哲　3 回）---------- 人類が経験したことのない急激な社会変化を背景とした現代教育について、幾つかの代表的な事例を取り上げて多角的視点からのアプローチを試みる。比較教育学、文化人類学の研究手法を駆使しつつ、具体的には「人生100年時代」における教育の制度設計、カリキュラム・マネジメントの視点からの教育資源の開発、「いじめ」の構図と学級経営の課題等に焦点を当てて問題設定を行い、議論を展開しながら教育の本質や課題について理解を深める。 （宋　曉鈞　3回）---------- 人間はその成長過程で受けた学習・生活環境の刺激によって、生理学的適応能力を獲得し、自己の健康を保護し守っていくことである。科学の進歩と日新月歩の医療の発展により、育成したい生涯学習者としての教育者像について健康･医学に関する内容を交え紹介する。また医学基礎知識となる人体の構造と生理機能を呈示し、特に健康影響には様々な分野が絡み合っているため、健康問題をともに深めながら具体的に論じる。 （内藤 伊都子　3回）---------- グローバル時代の日本の教育場面では、どのような対人関係が形成されその関係間ではどのようなコミュニケーション事象が展開されているのか、またそこにはどのような課題が存在し取り組まれているのか。本講義では、状況的にも対人的にも多様化する日本の教育環境において、文化的影響や対人間のコミュニケーションの実際などについて解説していく。			
８．学習目標	［全体的な学習目標］ 1. 対話・実践演習を通して、「総合的な人間教育学」について深く考え、多角的な視点から理解すること。 2. 教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向けた専門的知見を学び、自らの研究に役立てること。 3. 今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直す思考力・想像力と領域横断的な研究能力の基礎を身につけること。			
９．アサイメント （宿題）及びレポート課題	各担当教員が課すレポート課題を提出すること。 （高橋勝）800字程度で記述する小レポートを、毎回、課題として出す。 （石﨑 達也）各自の研究テーマに関連する人物・思想について考察したレポートの提出を求める。詳細は講義の中で指示する。 （金　龍哲）授業展開の必要性に応じて課題（レポート又はパワーポイントの作成など）を課す。 （宋　曉鈞）：講義内容を振り返り、児童生徒の健康維持と増進について、貴方の考えを述べなさい(1000字)。			

	（内藤 伊都子）指定した文献を講読し、講義内容を踏まえてレポートを作成する。詳細は講義の中で指示する。
10. 教科書・参考書 ・教材	【教科書】なし 【参考書】 ・中村雄二郎『臨床の知とは何か』岩波書店、1992 年。 ・高橋勝『子どもが生きられる空間――生・経験・意味生成』東信堂、2014 年。 ・佐藤達夫『からだの地図帳』、講談社、2014 年
11. 成績評価の規準と評定の方法	【評価の規準】 1. 「総合的な人間教育学」について深く考え、多角的な視点から理解することができたか。 2. 教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向けた専門的知見を学び、自らの研究に役立てることができたか。 3. 今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直す思考力・想像力と領域横断的な研究能力の基礎を身につけることができたか。 【評価方法】 出席状況及び授業態度（40%）、レポート課題（60%）として、総合的に評価する。
12. 受講生への メッセージ	これからの研究者には、既存の学問分野に閉じ込もるのではなく、多様な学問分野に関心を有し、既存の枠組みに囚われない見方・考え方をしながら、自らの研究活動を行っていく力が求められている。 将来、教員や研究者を目指す受講生には、このような幅広い広い臨床知・実践知としての「総合的な人間教育学」を基盤とした高い専門性と創造性が求められていることを自覚し、講義・対話・実践演習をとおして、自らの資質・能力の向上に努めてほしい。
13. オフィスアワー	高橋：授業中に連絡する。 石﨑：事前に連絡を入れてください（taishiza@ed.tokyo-fukushi.ac.jp） 金：毎週木曜日 12：30―13：00 （tel: 0270-40-4101 E-mail: lojin@ed.tokyo-fukushi.ac.jp） 宋：事前に連絡を入れてください（soshokon@ed.tokyo-fukushi.ac.jp）。 内藤：事前に連絡を入れてください（itnaito@ed.tokyo-fukushi.ac.jp）。

14 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	オリエンテーション ―― いま、なぜ臨床教育学なのか （高橋勝）

【学習の目標】臨床教育学という学問の対象と方法を理解させる。
【学習の内容】授業全体の概要と流れを説明した後で、いま臨床教育学が求められる社会的背景を詳しく説明する。
【キーワード】臨床教育学、臨床教育人間学、発達と生成、生の危機と再生、受苦的経験、生世界（life-world）
【学習の課題】臨床教育学にかかわる主要概念を説明できるようにする。
【参考文献】遠藤野ゆり・大塚類『あたりまえを疑え―――臨床教育学入門』新曜社、2014
【学習する上での留意点】学問は、あたりまえと思われた通念を、内から突破する武器であることを理解できるようにする。

2．テーマ	「発達」から「生世界」（life-world）へ――人間にアプローチする二つの〈まなざし〉 （高橋勝）

【学習の目標】「発達」のまなざしと「生世界」のまなざしという 2 つのまなざしの違いを他者に説明できるようにする。
【学習の内容】近代化の途上では「進歩」、「発達」、「一元的アイデンティティ」が重視され、定常型社会では「日常性」、「生世界」、「他者」が浮上するという〈まなざし〉の変化を詳細に説明する。
【キーワード】発達、生世界、日常性、分散するアイデンティティ、生の断片をつなぎ合わせる物語、他者
【学習の課題】「発達」（規範）から見る子どもと、「生世界」（事実）から見る子どもとは、見え方が異なることが理解できたか。
【参考文献】鷲田清一『現象学の視線――分散する理性』講談社学術文庫、1997
広井良典『定常型社会――新しい「豊かさ」の構想』岩波新書、2001
【学習する上での留意点】子ども・若者を見る〈まなざし〉は、その人の社会観が無意識に投影されることを理解させる。

3．テーマ	子ども・若者の「生世界」を理解する （高橋勝）

【学習の目標】子ども・若者の「生世界」を、参加観察で理解する方法が理解できるようにする。
【学習の内容】子ども・若者の生世界を理解するには、「教育」という規範の〈まなざし〉で見ることを一旦中断（エポケー）する必要があることを理解させる。
【キーワード】子ども、若者、生世界、物語の共有、ナラティヴ、関係性、参加観察
【学習の課題】人間を理解するということの難しさが実感できるようにする。
【参考文献】 高橋勝『子どもが生きられる空間――生・経験・意味生成』東信堂、2014
【学習する上での留意点】個性や適性等のコトバで、子どもを安易に評価したり、割り切って見ることの問題点が理解できたか。

4．テーマ	人物・思想研究の意義 （石﨑達也）

【学習の目標】学問と道徳の関係、学問を志す人間のあり方について探究すること。
【学習の内容】テキストを精読し、ワークシートに理解した内容や自らの問題意識に即した意見をまとめ、話合う。
【キーワード】学問の意味、学問と道徳、生活指導、道徳教育、実学とは何か
【学習の課題】ワークシートを完成させ、口頭発表を行う。
【参考文献】 福沢諭吉『学問のすすめ』岩波書店、1978 年
齋藤孝『日本を教育した人々』筑摩書房、2007 年
【学習する上での留意点】事前に指定箇所を熟読し、疑問点や質問などをまとめてくること。

5．テーマ	人物・思想研究の方法 （石﨑達也）

【学習の目標】人間の心の葛藤を描く小説を読むことをとおして、人間理解の方法を探究すること。
【学習の内容】テキストを精読し、ワークシートに理解した内容や自らの問題意識に即した意見をまとめ、話合う。

【キーワード】心の葛藤、国語教育の実践、文学作品と教育、人間理解
【学習の課題】ワークシートを完成させ、自らの意見を発表すること。
【参考文献】　夏目漱石『こころ』岩波書店、1989 年
　　齋藤孝『日本を教育した人々』筑摩書房、2007 年
【学習する上での留意点】事前に指定箇所を熟読し、疑問点や質問などをまとめてくること。

6．テーマ	人物・思想研究の実践　（石﨑達也）

【学習の目標】各自の研究テーマに関連する人物を深く探究したレポートを作成し、報告すること。
【学習の内容】受講生による口頭発表を行い、各発表に関して話合う。
【キーワード】資料・研究文献の検索・収集法、論文作成につながるレポートの書き方
【学習の課題　これまで各自が研究してきたテーマに関連する人物を選び、レポートを作成し、報告すること。
【参考文献】　資料配付、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】先行研究や文献等、十分な資料収集を行った上でレポートを作成すること。引用参考文献も付記すること。

7．テーマ	生涯学習という生き方―「人生 100 年時代」における教育の制度設計　（金　龍哲）

【学習の目標】長寿社会の到来に伴う教育制度を含む現行諸制度の限界を理解し、国際比較的視点から教育の現状を俯瞰する。
【学習の内容】生涯学習における学校教育の位置づけ、教育の仕組みや社会諸制度の改革に関する内外の動向について学ぶ。
【キーワード】人生 100 年時代、生涯学習、マルチステージ、コンピテンシー
【学習の課題】長寿社会ががもたらす教育の諸課題、生涯学習における学校の役割、生涯発達諸段階における教育の在り方
【参考文献】　リンダ・グラットン『LIFE SHIFT―100 年時代の人生戦略』 東洋経済新聞社、2016 年。
【学習する上での留意点】指定された資料を事前に閲読し、問題点を整理して授業に臨むこと。

8. テーマ	カリキュラム・マネジメントの視点による教育資源の開発－伝統文化や地域文化を如何に扱うか　（金　龍哲）

【学習の目標】長寿社会の到来に伴う教育制度を含む現行諸制度の限界を理解し、国際比較的視点から教育の現状を俯瞰する。
【学習の内容】生涯学習における学校教育の位置づけ、教育の仕組みや社会諸制度の改革に関する内外の動向について学ぶ。
【キーワード】人生 100 年時代、生涯学習、マルチステージ、コンピテンシー
【学習の課題】長寿社会ががもたらす教育の諸課題、生涯学習における学校の役割、生涯発達諸段階における教育の在り方
【参考文献】　リンダ・グラットン『LIFE SHIFT―100 年時代の人生戦略』 東洋経済新聞社、2016 年。
【学習する上での留意点】指定された資料を事前に閲読し、問題点を整理して授業に臨むこと。

9. テーマ	「いじめ」対策から考える生徒指導と学校リスクマネジメントの課題　（金　龍哲）

【学習の目標】いじめ問題の本質を理解し、人権教育の視点から生徒指導と学級運営の課題を整理する
【学習の内容】いじめ防止対策関連法規、いじめに関する諸外国の動向、事例から見る学校リスクマネジメントの課題
【キーワード】いじめ、いじめの構図、人権教育、リスクマネジメント、
【学習の課題】。　いじめはなぜ人権問題か、いじめの本質は何か、本当の意味でのリスクとは何か。
【参考文献】　「いじめ防止対策推進法」
【学習する上での留意点】事前に指定した資料を熟読して授業に臨むこと。

10．テーマ	身体の構成と機能。思考力や行動力を生み出す脳の不思議さを知って置きたい　（宋　曉鈞）

【学習の目標】人間はその成長過程で受けた学習・生活環境の刺激によって、生理学的適応能力を獲得する。生体の内部環境の恒常性、酸素とエネルギーを身体に取り組み仕組みについて理解する。
【学習の内容】　（1）細胞・体液の組成、生体恒常性の調節について理解する。
　（2）器官・器官系、身体の構成と働きの機序について理解する。
　（3）エネルギーを身体に取り組みの機序について理解する。
　（4）思考力や行動力を生み出される脳の生命活動について理解する。
【キーワード】　学習と生活環境、身体の内部環境、細胞と体液、エネルギーの産生機序、脳の生命活動
【学習の課題】　ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】　授業内で配布する資料を参照。参考書：「人体解剖図」、坂井･橋本、出版社「成美堂」2020 年
【学習する上での留意点】人間の生理機能と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。

11．テーマ	健康維持に依存する生体の免疫・感染防御機能。自己を守る為の生理機序を理解する　（宋　曉鈞）

【学習の目標】　健康維持に依存する生体の免疫反応は、いろいろな細胞がさまざまな手段を駆使して働いている生体防御の為の複雑なシステムである。微生物や寄生虫等の感染に対して、抵抗力と防御力を与えるのが免疫系である。感染性の病原体に対する免疫系の対応は、自然免疫システムと、獲得免疫システムがある。免疫系の基本的システムを習得する上で、生体防御システムの知識を深める。
【学習の内容】　（1）免疫防御機構の特徴（自然免疫と獲得免疫）について理解する。
　（2）獲得免疫の機序：液性免疫と細胞性免疫の仕組みについて理解する。
　（3）病原性微生物感染と免疫反応について理解する。
【キーワード】　自然免疫、獲得免疫、自己、非自己、抗原、抗体、補体。
【学習の課題】　有益な免疫現象が感染防御機能として働くこと、他方抗原変化が激しいヒト免疫不全ウイルス（HIV：エイズの原因ウイルス）等に対しては抗体がウイルスの感染を阻止できない理由を把握する。
【参考文献】　授業内で配布する資料を参照。参考書：「病気が見える⑥：免疫・膠原病・感染症」、医療情報科学研究所編集、出版社「メディックメディア」2015 年
【学習する上での留意点】　抗体は単独で細菌（やウイルス）を傷害(破壊)できないことを理解する。抗体の役割を把握すること。

12. テーマ	生命の営み：免疫系と自律神経系及び内分泌系との深い関係、ストレス反応が起こるメカニズム　（宋　曉鈞）

【学習の目標】　免疫系と神経・内分泌系は密接に連携しており、ストレスが免疫系の働きに悪影響を及ぼすこと、さらに免疫系が消化器系、循環器系、泌尿器系などの細胞を傷害することについて理解を得る。
【学習の内容】　脳がストレスを感知した場合に、神経・内分泌系の作用によって免疫機能の低下を招くこと、一方免疫系が他の臓器細胞に傷害を与える現象を臓器別に解説する。

【キーワード】　ストレス、副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）、副腎皮質ホルモン、ノルアドレナリン、アセチルコリン
【学習の課題】　精神的なストレスが引き金となって各種のホルモンを分泌させ、その結果免疫系に影響を及ぼすことを把握する。
さらに免疫系が各種の臓器細胞を傷害することを理解する。
【参考文献】　授業内で配布する資料を参照。参考書：「脳の事典」、坂井・久光、出版社「成美堂」2019 年
【学習する上での留意点】　免疫系と神経・内分泌系の関係にはホルモンが比較的複雑に作用するが簡潔に理解すること。

１３．テ ー マ	教育場面における対人関係　（内藤伊都子）

【学習の目標】教育場面における人間関係の調整や社会的相互作用について探求する。
【学習の内容】日本の教育環境を概観し、教育場面での対人関係の形成や維持について考察していく。
【キーワード】対人関係の形成・発展・維持、対人不安、教員と学習者の関係、個人と集団、親密性　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べておくこと。
【参考文献】　石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013 年
その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身のもつ対人関係を分析し、関連付けて考えてみること。

１４．テ ー マ	多文化共生と教育　（内藤伊都子）

【学習の目標】多様性に富む学習者の状況や教育環境について検討し、文化的差異や異文化への理解を深める。
【学習の内容】多文化共生社会における日本の教育環境について概観し、問題やその対応などについて考察していく。
【キーワード】多文化共生、外国語活動と外国語、学習指導要領、外国人児童生徒、ニューカマー　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べておくこと。
【参考文献】　学習指導要領、資料配付、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身が所属する文化、集団、組織などに関連付けて考えてみること。

１５．テ ー マ	教育とコミュニケーション能力　（内藤伊都子）

【学習の目標】コミュニケーションとして表出された人間行動の意味について多面的に解釈できるようになる。
【学習の内容】学校教育で養成を目指す能力と社会で必要とされる能力の意味について考察していく。
【キーワード】学士力、社会人基礎力、コミュニケーション能力、異文化コミュニケーション能力、スキル　など。
【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べておくこと。
【参考文献】　資料配付、その他文献は講義内で紹介する。
【学習する上での留意点】自身のコミュニケーション行動を分析し、行動の意味を批判的に考えてみること。